

NGNのサービス分野でNECと協業 INの資産がIP電話でも利用可能に

メディア・クルーズ・ソリューション(MCS)とNECは、IP電話の付加価値事業で提携、年内にNGN対応INシステムの共同展開を開始する。提携の狙いをMCSテレコミュニケーション事業部 取締役事業部長兼技術統括の田中寿則氏、同事業部営業部部長の武田善治氏、NEC第一ネットワークソフトウェア事業部長の吾郷真治氏にたずねた。



NEC第一ネットワークソフトウェア事業部長
吾郷真治氏

今回の業務提携はどのようなものなのでしょうか。

田中 私どもメディア・クルーズ・ソリューションは、IP放送やビデオ・オン・デマンドなどの映像分野のソリューションとIN(Intelligent Network)技術をベースとしたIP電話向けの付加サービスソリューションの2つを通信事業者に提供している技術開発企業です。

当社ではこの電話系の付加サービスソリューションの1つとして電話網(PSTN)で高度サービスを制御するINのIP化、すなわち通信事業者の交換機を外部のコンピューターで制御するSCP(Service Control Point)の機能とそのアプリケーションをIP電話での利用を可能にする製品を「IP-IN」の名称で展開しています。

IP-INは、すでにいくつかの事業者にご採用いただいておりますが、今回の協業では、これをベースに開発したコンポーネントをOEM供給し、NECのNGNソリューションの1つとして展開していきます。

この提携により当社は販路の拡大が望めますし、NECにとっても短期間

でINの機能を組み込んだNGNソリューションの提供が可能になるというメリットが生じます。

NECではこれをどのような製品として展開するのですか。

吾郷 NECのNGN関連製品は大きくサービス提供基盤(SDP: Service Delivery Platform)の「NC7000シリーズ」、コアにあたるネットワーク制御基盤(IMS:IP Multimedia Subsystem)の「NC9000シリーズ」、トランスポート制御基盤の「NC5000シリーズ」の3つのラインナップで構成されています。

今回の協業ではNC7000の「イネーブラ」としてMCSのプロダクトをベースに開発したコンポーネントを提供します。

SDPではイネーブラと呼ばれる機能モジュールを提供することで、サービスの提供に必要な多彩な機能を実現することが想定されています。NC7000では「呼制御サーバー」「プレゼンスサーバー」「メッセージングサーバー」などすでに10種類程のイネーブラ製品がリリースされています。今回これらに加えて、INサービスをIP電話上で展開する際に必要となるプラットフォームをMCSにOEMしていただいで提供するわけです。

タイムリーに製品を投入

NECは自社でもINの高度な技術をお持ちだと思います。この分野でMCSと協業を組まれたのはなぜなのでしょう。

吾郷 確かに我々もINの技術を持っていますが、IP化はまだ行っていませんでした。そこで自社開発をするか、



MCSテレコミュニケーション事業部
取締役 事業部長 兼 技術統括
田中寿則氏



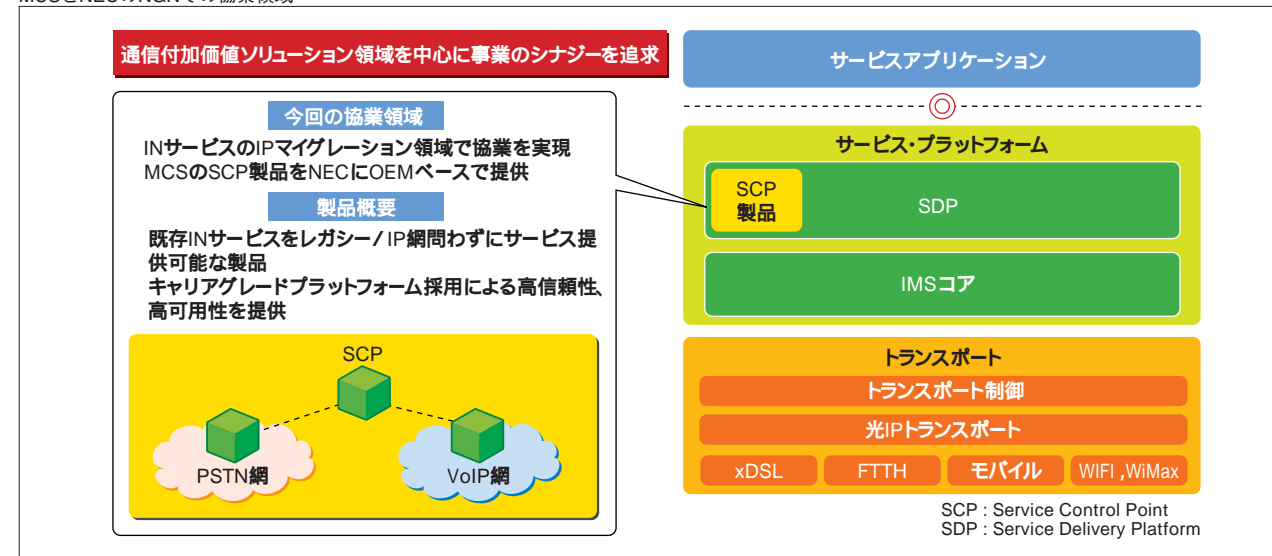
MCSテレコミュニケーション事業部
営業部 部長 武田善治氏

すでに実績のある製品を導入するかを検討したのですが、後者の方がNGN/IMSにフィットした製品を市場にタイムリーに提供できると考えました。早期に製品を展開することで通信事業者のサービス構築事業を有利に展開できると判断したのです。

IPや通信系の技術は非常に幅が広く、進歩の速度も近年はIT系よりも早いペースで進んでいます。

こうした中ではコアセットとして自社で持つべき領域と必ずしも自社でカバーする必要のない領域を区分していかないと、競争には勝てません。

MCSとNECのNGNでの協業領域



特にサービスに関わるイネーブラ領域は1社ですべてをカバーするのは不可能です。そこでこの領域では、積極的に他社とアライアンスを構築して事業を進めています。

この提携を結ばれるきっかけは何だったのですか。

武田 今回の協業のご提案をさせていただいたのは昨年なのですが、その前にも、個別の開発案件でNECと協力させて頂いております。我々のシステムをご採用いただけた理由にはその実績をご評価いただいたこともあるのではないかと思います。

PSTNとIP電話で同じサービス

MCSが自社展開しているIP-INと今回リリースされるNC7000のイネーブラは何が違うのですか。

田中 機能面では同じものだと考えていただいてよいと思います。

最大の変更点は、汎用サーバー上で稼働する従来製品をNECが展開しているAdvanced TCAベースのキャリアグレードプラットフォームに実装したことです。これにより運用面でも通信事業者の高度なニーズに応えられるようになります。

この他、製品化に伴って運用系の機能を追加して欲しいというリクエストをいただいたので、それを組み込んでいます。

今後お客様にご提案する中で、個別の要望をいただくことになると思いますのでこれに対応していくことになると思います。

この製品を導入することでユーザーにはどんなメリットがあるのですか。

田中 IP-INの最大の特徴は、ISUPやINAPなどのレガシーな電話のプロトコルをサポートしており、IP電話で従来のINの機能を実現できることです。PSTNとのインタフェースも持っていますから、IP電話とPSTNの双方で同じサービスを提供しながら、徐々にマイグレーションを進めていくことが可能です。すでに汎用サーバーでIP-INを導入されているお客様がシステムをNECのプラットフォームに置き換えればNGNにも対応できます。

他社のSCPを導入しているユーザーも導入できるのですか。

お問い合わせ先
メディア・クルーズ・ソリューション株式会社
テレコミュニケーション事業部
TEL: 03-5469-8090
問合せURL: <http://www.mcsc.com/jp/telecom.htm>

田中 ある程度のソフトの書き換えは必要になりますが、基本的な考え方は同じなので、容易にこのシステムに移行することができます。

吾郷 収益性の高いフリーフォンやプリペイドなどのB2C系のサービスを提供する上でINは非常に重要な要素になっています。その機能がNGNでもそのまま使えることは、通信事業者にとって非常に大きなメリットになると思います。

今後この分野でどんな事業展開が考えられるのでしょうか。

吾郷 INの機能はコールセンターのソリューションやビジネス向けに特化したパーソナルなサービス、例えば一斉同報だとか、特定のアプリケーションをその時だけ使うといった電話系のコミュニケーションにも使える可能性があるのではないかと考えています。MCSでも同じようなことお考えのようなので、アイデアを出し合って新しい切り口でのINの応用を進めていきたいと考えています。